

A・F・ボードイン帰国時の 賞典授与の経緯について

松田 武

文久二（一八六二）年九月ボンペの後任として長崎に着任したボードインは長崎養生所（精得館）・医学所における診療・教育に従事し、一方基礎学科たる分析窮理所の設立に尽力し、わが国の実験理化学教育の礎石を築いた。

以後幕末期江戸における医学校・病院・の設力計画に参加し、維新政権下においては、大阪において大阪府病院・医学校および陸運医学校・病院の創設に中心的位置をしめ、わが国医学・医療の創設期に重要な役割を演じた。またウイリスなきあと普国教師来日までの一時期、大学東校の教育を懇望され、これを通して東京における世評ボードイン観を一変させたことなど、ボードインの足跡、業績に關して多くが記述されてきている。しかし長崎時代以降の

ボードインの足どりは、従来言われてきたほど単純なものでなく、わが国将来の医学・医療政策とかかわる錯綜した背景があった（拙稿「大阪府仮病院の創設」1・2頁大阪大学史紀要）一・二号Vで若干の考察を試みた。また、ボードインに關する石田純郎氏の研究「お雇いオランダ人医師 総論 ボードイン人脈」（本誌第二十八卷第三号）は新しい視角を提出し、研究の発展がまたれる。

ところでボードインが明治三年帰国に際して政府より賞典授与が行われたのであるが、こと経緯を観察することによって、大学東校、外務省、政府のボードインにたいする評価が如何なるものであったかが判定できるとともに、それまでに去った外人教師——ウイリス、ハラタマなど——への褒賞と比較して、格段の相違のあることが指摘できるのである。報告ではその経過を紹介して、ボードインの再評価の一端としたい。

（大阪大学医学部衛生学教室）